

## (4) TPO創設(案)協議

### ● 議長 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

お昼は美味しく召上がって頂きましたでしょうか。お昼の後は、多少眠くなりがちです。そして、年をとったら現れる幾つかの症状がございますが、その内の一つが昼になると居眠りをし、夜になると寝付けないという症状です。しかし、本日参加して下さいました皆様は、大変元気で若い方々なので居眠りなどなさらないと思います。では、広州市、発表をお願いします。広州市のLi Zhi Xinさん、発表の準備をお願いします。

### ● 広州 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

議長、そしてご列席の皆様、こんにちは。本日このように広州市の観光について説明する機会を得まして大変嬉しく思います。

観光産業は、21世紀の浮上する産業と言われており、「観光が発展を促す」という言葉は、既に世界的に多くの国家の共感を得てきております。中国は、改革開放を進めてきたここ20数年間、政府と各部門の高い関心と各部門の共同努力の下で中国の観光産業は国民総生産を上回るスピードで発展してきました。中国は、観光資源大国からアジア観光大国に向けて歴史的な第一歩を踏み出したのです。2200年の歴史を有する広州は、中国華南地域の中心都市であり、シルクロード発祥地の内の一つで、中国国務院が発表した中国24の歴史文化名勝地の一つでもあります。

観光産業は、既に広州市の国民経済においても最も発展のスピードが早い産業の一つとなりました。広州の豊かな観光資源は、経済的なメリットであり、次第に現実的な経済優位に転換しながら、相当な産業規模を形成するに至りました。観光客の数、観光産業の総収入、観光による経済価値と観光産業の増加数値等幾つか重要な指標は全て中国各観光都市の中でも優位を占めています。1998年末、広州市は、初めて中国の優秀観光都市に選ばれました。

次は、三つに分けて皆様に広州をご紹介します。

一、広州の観光産業は、前代未聞の関心を得ており、観光の中心都市としての魅力が日毎に顕在化しています。

1994年、広州市人民政府は、《観光業の発展加速化に向けた決定について》という報告書を発表し、観光を広州市経済の主力産業として加速発展させるということを明かにしました。

そして、1995年また観光を《広州市国民経済計画、社会発展第9次5ヶ年計画及び2010年の見込み目標要綱》に盛りいれました。また、同年10月、広州市は、《広州観光発展戦略要綱(1996-2005年)》を制定しました。1998年、広州市は、広州を観光中心の都市に建設する計画を打ち出しました。ここ数年間、広州市は、「1年の小さな変化(小変)、3年の目に見える変化(中変)、2010年の大きな変化(大変)」という都市建設に関する発展計画を進めてきました。その結果、観光インフラの建設に顕著な効果を表わし、初期には現代化中心都市としての主な交通の枠組みを作り、交通環境を大きく改善し、観光発展の前提である迅速かつ順調な交通条件を整えました。広州市は、「山

水生態都市」の理念に基づき、都市区域を計画し「青山、緑水、藍天、緑地」の建設を進めております。さらに、全面的に都市環境を整備し、都市公園、広場、道路の緑化建設を強化し都市の緑化と美化を追求しました。最近、一人所有の公共緑地面積は平均7.87平方メートルで、公園の数は72に達しております。また、政府部門の投資として北京路と上下九路の商業歩行通りを整備し、鎮海楼、中山紀念堂、黄埔軍事学校の跡地、沙面欧陸の建築物、西関大屋などの文物古跡と近代の優秀な建築物を修理するとともに、広州海洋館、香江野生動物の世界、長隆夜間動物の世界など、特色のある観光団地を建設しました。ここ数年間の努力の結果、広州市の自然環境や歴史人文景観、現代化建設の成果が顕在化しており、観光中心都市としての魅力が大きく増大しています。その結果、多数の国内外の観光客を誘致するとともに、多額の商業投資を誘致することができました。

二. 観光産業の規模は日々に拡大しており、国民経済の新しい成長点になりました。政府の観光業の発展に向けた努力により、観光業は目を見張るような発展を遂げています。

「交通(行)、観光(遊)、宿泊(住)、飲食(食)、ショッピング(購)、エンターテインメント(娯)」など、6つの産業における基礎要素が充実化し、その規模は持続的に拡大しています。現在、観光宿泊施設の数1680ヶ所、客室数は約11万室、ベット数は約22万床です。内訳は、観光ホテルクラスが148ヶ所、旅行社が121社あり、観光客を誘致している一定規模の観光地は約70ヶ所、飲食業関連の事業所が約2万2千店あります。約42万の産業人口を有しており、固定資産総額は334億ウォン、観光宿泊客は年間2,300万名ほどです。そして、15億ドルを上回る外貨収入や415億ウォンを上回る営業総収入をあげ、総合的な生産能力を持つようになりました。2000年、広州の観光業における総収入は415.72億ウォン、その中で観光外貨収入が15.06億ドル、観光増加値は128.42億ウォンを占めています。広州市GDPの5.3%を占める観光業は、現在、名実共に主力産業となっています。

三. 広州観光の「真髄」を構築することにより、外国の観光客を「広州観光」に誘致しています。このような努力の結果、21世紀に入り、広州は、全国の各省市の中で優位を占めるようになりました。優位を保持するためには、広州の歴史や文化、現代都市の文化、商業文化や食べ物文化などの資源メリットを十分に活かさなければなりません。伝統的な観光商品の優位性をアップグレードしつつ、新しい観光商品を持続的に開発することにより、広州観光の「真髄」を整え、観光客を誘致するよう力を注いでいます。

1) 伝統的な観光商品のアップグレードを進めています。広州は、2000年に至る歴史文化を持つ古城であります。その悠久な都市歴史に見合う豊富な資源を受け継いでおり、国内外の観光市場においても知名度の高い都市であります。歴史や文化という広州の宝庫を十分に発掘・活用し、徹底に保護・開発するとともに、文物古跡、史跡の歴史、科学、芸術の価値に関する細心な研究を行うことにより、「我々は他人が持たないものを持っており、他人が持っているものの中でも最も優秀なものを持っている」というメリットを十分に活かさなければなりません。南越国の官署、南越王墓、南海神廟、黄埔軍事学校などの観光地を重点的に開発していきます。そして、鎮海楼、陳家祀、中山紀念堂などのコースなど、「広州の歴史文化風景1日旅」を持続的に推進するとともに、海上シルクロード歴史遺跡旅行、南越古文化の歴史遺跡、近・

現代史遺跡などを開発することにより歴史文化都市の広州を形成します。

- 2) 新しい都市文化観光商品を開発しています。現在、世界は目まぐるしく発展しており、文化の進歩も早い速度で進められています。広州は中国華南地域の中心都市であり、多様な文化が集中している都市でもあります。同時に現代的な都市文化も有しています。広州のグルメ(美食)、ショッピング、ビジネスなどのメリットを十分に活かし、「伝統と歴史のある有名商標」商店を保護整備するとともに、グルメ旅行、リゾートショッピング旅行へ発展させます。参加度が高く、地方的な特徴のある「春迎え花市場」、「正月十五日灯節」、「端午の節句のボート競技」などの伝統的な民間の節句祝祭を行い、「広州国際観光博覧会」、「広州国際グルメ節(美食節)」、「芸術祝祭」、「フェスティバル」、「ファッションショー」、「国際月曲節」(広東と広西地域地方劇の曲調)、「映画祭」、「スポーツ競技」など、独特の文化が感じられる上、少ない投資で迅速に効果をあげられる新しい商品開発に力を注ぎます。
- 3) 修学、態、リゾートなどの専門的なテーマ観光商品を開発します。修学旅行においては、国民観光計画や青少年ユースホステルネットワークを建設し、近代史遺跡、岑南文化、グルメ料理、国医学の鍼灸、工業観光、農業観光等をテーマにした商品を作ります。文化的に興味を引く内容を盛り込むことにより参加度や教育効果を高めます。生態旅行においては、森林、海洋、農業などの生態環境観光商品を重点的に開発します。リゾート旅行においては、広州南湖国家の観光リゾート区や増城、花都、番禺、從化などの郊外地域のリゾート山荘、そしてゴルフ場など、ゴルフ旅行や都市旅行、ビジネス旅行、リゾート旅行を結合したテーマ旅行シリーズを作ることにより、国際的にもレベルの高い広州リゾート旅行商品を作ります。

21世紀、美しい広州は、参加者の皆様を歓迎します。是非、広州にいらして下さい。ありがとうございます。

#### ● 議長 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

1時間の子定でしたが、30分で終えて下さいましてありがとうございます。主題が、アジア太平洋観光交流拡大方案であります。広州市の紹介のみで終わったようです。ご紹介ありがとうございました。広州の発表について質問やご意見ございませんか。

#### ● フロア(傍聴客) ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

観光ポータルサイト構築会社ポニーテック企画室長のバク・ヨンジュです。広州市では、インターネット観光マーケティング広報のため、どのような仕事を推進しており、今後の計画はどういうものか伺いたと思います。

#### ● 広州 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

現在広州市は、中国国家観光局で統合的にやっている観光ネットワークに参加しており、同時に単独でもこの分野の開発を行っています。また、民間でもワイドバンドシステムを利用し、ネットワークを構築しており、広州市の全てのホ

テル、宿泊業、旅行代理店も自主的にネットワークを構築しており、これらを通じて観光客を誘致しています。ありがとうございます。

● 議長 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

ありがとうございました。他の質問をどうぞ。佐賀市代表、どうぞ。

● 佐賀 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

佐賀市です。広州市について質問はございませんが、広州市が大規模の計画を建てて魅力的な観光政策を繰広げていますことに感銘致しました。佐賀市は、人口17万人で、多分今回ここに参加された都市の中で一番規模が小さいのではないかと思います。基本的に、佐賀市も観光産業の育成を市の最重点事業と見做し、努力しています。しかし、規模の違い、グローバリゼーションの時代でこの小さな都市がどのように取り組んでいくべきかが大きな問題です。我々は、位置的に、九州という小さな島ですが、その中に福岡市も含めた10の都市がありますが、その都市の中で如何に競争し生抜いていけるかがまず一つ大きな命題として私共にあります。そして、観光資源の問題であるとか、観光客誘致の問題であるとか、色々と各都市が熱心に努力している訳ですが、こうしたサミットで論議されている皆様とのグローバルな関係を如何に位置づけていけるか戸惑っています。率直に、佐賀市は、こういった形の中での皆様とお付き合いをどこまでできるのか、もしかしたら九州を一つの街として捕らえたら、皆様と肩を並べてお付き合いできるのかなと思います。この後、恐らくTPOの問題など出てくると思いますが、皆様と同じような形でTPOに参加し、皆様とお付き合いできるのかというのは、皆様の意見を聞きながら深く考えているものです。以上です。

● 議長 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

他に質問ございませんか。ないようでしたら、まだ30分ほど時間がございますので、午前中に引き続き各都市の紹介に参りたいと思います。午前中に熊本市の紹介まで終えたと思います。では、マニラから1分ずつ市の紹介をお願いします。

● マニラ ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

まず、皆様を歓迎致します。私はマニラから参りました。マニラは、フィリピンの首都でフィリピン諸島の中心でも、東洋と西洋が調和を成している所です。マニラ市政府は、現在、市長の立派な指導力の下で発展指向の多くの事柄を推進してきました。マニラの市長は、外国人のみならず内国人も美しい景色を楽しめるように都市美化政策を繰広げています。清潔な状態を維持し、都市地域と群島を継続して美しく改善するため努力し、歴史的な遺跡をよく維持させる政策も繰広げています。このような政策により、夜にも皆様にマニラの美しい景色を楽しんでいただけます。また、マニラ市長の革新的な方法と市警察とバランガヤという地方自治体が努力し、全マニラ市民が安全に生活できるようにしています。警察と公権力が安全を保証しています。皆様もマニラにいらして、どのように発展したのか、どのように環境を改善しているのかご覧になって下さい。ありがとうございます。

## ● 議長 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

観光を発展させるためには、幾つかの要因が必要です。まずは、観光インフラが構築されるべきであり、そして観光商品を開発し、観光ルートを開発すべきで、これらを広く知らせる観光マーケティングが必要だと思います。それを支える観光組織力と指導者の意志や指導力が大変重要だと思いますが、マニラが市場の指導力を強調して下さいました。特異な分析で素晴らしいお話でした。ありがとうございます。次は、宮崎、どうぞ。

## ● 宮崎 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

宮崎市です。宮崎市は、日本の九州の東海岸にあり、太平洋に面しています。海岸線は、南北に約30キロメートルありまして、平均気温が約18度、温暖な気候に恵まれています。積雪もなく、松の大樹海、亜熱帯植物で有名な青島などがあり、風光明媚な景勝の地であります。宮崎市の最近の話題は、昨年の7月の九州沖縄サミットの外相会合を昨年沖縄で開催致しました。それから、今年4月ですが、宮崎とソウルの間、アジア航空によりまして初めての国際定期路線が就航されるようになりました。現在搭乗率77～8%でなかなか好評です。国際交流を支えるために航空路線や交通のますますの発展を進めて行きたいと思っております。ありがとうございます。

## ● 議長 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

ありがとうございます。長崎市、お願いします。

## ● 長崎 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

こんにちは。日本の長崎市です。長崎市は、広島と並んで、世界で唯一原子爆弾の被爆をしている所として名前が知られていると思います。実は、日本の中で、過去、日本が門戸を閉ざしていた時代に唯一世界に向けて開かれていた街として400数十年の歴史を有しています。430年の歴史の中で、例えば、ポルトガルだとか、オランダ、中国との交流の中で培われてきた文化遺産としての観光資源を沢山有しております。例えば、中国のお寺だとか、昔中国の方が住んでいた唐人屋敷等々がありますし、それから、日本で一番古い教会も持っています。外国人が住んでいた居留地といった施設も持っています。そして、その歴史の中で培われました、長崎独特のイベント、お祭りがございまして、それは日本のどこでも見られないものであります。例えば、冬にやっているランタンフェスティバルと言ひまして、春節祭ですが、中国のお正月に合わせたイベントを15日間に渡って開催するフェスティバルがあります。そして、日本の三大お祭りの一つである「くんち」という大きなお祭りがありますが、これは、オランダとか中国、ポルトガルから入ってきた文化を長崎の独特な形に融合してできています。食べ物に関しても、中国のものもあれば、日本のものもある、また、全部混ざった長崎独特のものもあるといった感じです。長崎につきましては、ソウルと上海には直行便がありますが、こちら釜山の方には直行便はございません。ただ、九州の福岡市から長崎市までJRで1時間50分、バスでくれば2時間の近い距離ですので、釜山から便利な位置にあります。長崎市は、造船業、水産業、観光業の3つの産業で成り立っておりまして、市長は、観光を日本国内だけでなく、アジアでも売って行こうと、トップセールスで動き回っています。

また、長崎につきましては、今回ご参加の他の都市とは違いまして、平和を求めて活動するという側面もあります。こういった資源を活用しながら、アジアの中で長崎というものの地位を高めていって、皆様にも是非長崎の方にお越しただければと思います。どうもありがとうございました。

### ● 議長 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

ありがとうございます。長崎市は、原爆の被害を受けた都市ですが、それを逆に活用し、平和を一番愛する都市として、それを観光商品を開発するという政策が大変印象的です。ありがとうございます。

次は、大分市お願いします。

### ● 大分 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

日本の大分市でございます。大分市の紹介につきましては、三点に絞って紹介をさせていただきたいと思っております。

まず、第一点目は、大分市の特色でございますが、日本の九州の中の大分ということで、なかなか名前をご存じでない方も多と思うんですけども、大分の場合は、日本が戦後、焼け野原からこのように豊かな国に変わりましたが、そういった高度成長を支えた歴史の生きた証人とも言えます。日本の中で大分は田舎の街でございますが、戦後、急速に経済が発展しましたが、それはその時に田舎の安い労働力とか優秀な労働力、豊富な川水とか遠浅の海とか、そういったことを含めまして都市が急速に大きくなったということで、経済政策によって大きくなった都市です。急速に都市が大きくなったための公害問題、或いは都市問題とか農業問題、そういったものも急速に発生し、それに伴って色々な取組みを重ねてきたという歴史を持っています。

第二点目でございますが、高崎山自然動物園というのがございます。これは、1800匹の野生猿が棲息している動物園で、ABCの三つの郡に分かれ、野生の状態で保たれ、割と全国的にも知られ、国内外から沢山のお客様がいらしており、釜山市からも大勢の観光客がいらしております。

第三点目でございますが、大分市は、2002年のワールドカップの開催都市になっています。つきましては、九州で唯一ということですが、それに向けての、観光のルートということで「温泉、桶倉、美味しんぼ」と名うってイメージアップを図りたいと思っております。これは、どういうことかという、大分は、日本の中でも温泉が一番多い所なのでそれを売っていきたいと思っておりますし、桶倉は、伝統芸能ですが、ワールドカップに向けて日本の伝統芸能として売っていきたいと思っております。美味しんぼというのは、美味しいということで、グルメ都市として売っていきたいと思っております。魚、フグなどのグルメが沢山ありますので、そういうグルメ都市だということで売っていきたいと思っております。以上、3点でございますが、高度成長に生きた街だということ、猿の高崎山のある街だということ、そして、ワールドカップの開催都市だということ、この3点を紹介致しました。ありがとうございました。

### ● 議長 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

ありがとうございます。三点にまとめて説明して下さいました。ご存知の通り、来年、ワールドカップが日本と韓国で共

同開催され、今それぞれ着実に準備しております。来年の世界カップに多くの関心をお寄せ下さい。特に、今会議が進行されているコンベンションセンター、BEXCOが5月にオープンし、9月には正式に開場します。そして、この場で12月1日、ワールドカップの抽選会が予定されています。全世界に放映される予定ですが、それをご覧になりながら大いに広報して下さい。次は佐賀市です。

## ● 佐賀 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

佐賀市でございます。先ほどちょっと触れましたが、人口17万人、福岡市から車で1時間足らずの所でございます。広い平野をもちまして、緑豊かで本当にどこから見ても緑いっぱい田舎でございます。今、日本では、こういった自然の美しさというのが非常に脚光を浴びてきています。今まで、何もなかった所、そういった所に観光の可能性が求められております。佐賀市は、約500年の歴史を持つ街です。街自体にも、古い町並みが残っております。古い町並みを観光としてどう活かしているかということで、一生懸命努力しています。近々皆様方に佐賀の古い町並みをゆったりと歩きながら古い日本の良い所をご覧になっていただけたらと思っています。それから、もう一つ、私たちが世界に誇れるイベントを一つだけ持っています。それは、「SAGA International Balloon Fiesta」で、約20年に渡って開催しています。今年も、10/31-11/4まで、五日間の間ですが、佐賀市の直ぐ近くの広いエリアを利用した大会を開催致します。世界から約15-6ヶ国から20ヶ国に渡っておいでくださいますが、100基を超える気球が一斉に空に舞い上がる時の爽快さは、誰もが強い感動を受けて楽しませております。お客様は、五日間の間に毎年80万人から100万人お出でになります。その間、わずか人口17人だった佐賀市全体が沸き返ったような賑わいをみせております。勿論、こちらの韓国からも、毎年何チームか参加しております。インターナショナル・バルーン・フェスタのもう一つの特徴は、殆どボランティアで運営なされるということです。海外からお出でになるお客様や選手、役員も多数ボランティアでお出でになりますし、大会運営そのものがボランティアということで、この種の大きな大会で殆どの人達がボランティアで携わる、街の人たちも積極的にボランティアで携わって何等かの形でイベントに関わりを持ちたがる、例えば、環境問題対策でゴミを自主的に拾っていただくとか、そういったことまで関わっていただいております。街のあちこちで国際交流も自然発生的に行われております。是非、今年も10月31日から五日間行われますので、皆様にもお越しいただきたいと思っております。ありがとうございます。

## ● 議長 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

はい、佐賀市のバルーン・フェスティバルは、インターネットを通じて拝見させて頂きましたが、内容は今おっしゃって下さった通りです。人口わずか17万の都市で、一つのお祭りを全市民が一つになってボランティアを通じて世界的な観光商品に仕上げました。これは、佐賀市の市民精神の勝利だと思います。小規模であれ、大規模であれ、規模とは関係なく、都市に合った観光商品を開発し、全市民が一つになって発展させていけば、いくらでも素晴らしい観光商品を作れるという教訓を佐賀市が証明してくれました。ありがとうございます。次は、上海市、お願いします。

## ● 上海 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

本日の会議に参加でき、発言の機会を得まして感謝申し上げます。簡単に上海を紹介させていただきます。上海は中国の経済都市であり、港と文化の都市で、東海を中心であり、陽子江が流れています。面積は6400平方メートル、人口は1400百万人で、開放以降、経済及び文化的な発展を成し遂げています。

今も長期的な発展を推進中で、上海の指導者や全ての管理者が上海を観光都市として発展させる為に努力しています。また、0次5ヶ年計画、2010年までの長期計画案を見ると、観光が大きな比重を占めています。そして、過去9年間観光客が百万人訪問しており、これから2010年まで840万人が訪問すると予想しています。そして、上海は国内外の旅行社が500社余り、ホテルが3400カ所で25000個のベッドがあり、観光ホテル級の宿泊施設も多くございます。また、二つの路線の地下鉄が開設され、列車及び高架道路も建設される等、交通が発達しています。また、観光バスが多く、中国の全ての都市に行けるよう交通ルートが良く発達しています。南京・黄州等の観光地域に行く時には、専門バスを利用でき、二つの国際空港もあります。また、上海・釜山間の直航便があり、わずか1時間で速くて便利に上海を訪問できます。基礎インフラが構築されていて東方シルク塔といわれるテレビ塔は、両方に川を挟んでいるので景色がとても奇麗です。

そして、上海市は国際芸術祭・映画祭・テレビ祭等の観光資源を用意して多くの国内外旅行客を誘致しています。それだけでなく、毎年様々な規模の国際会議や展示会、博覧会等を開催し1999年には「Fortune」、2000年「国際観光会議」、そして、今年は「APEC巡回会談」が開催される予定でございます。

皆様、上海にお越しになって楽しさを満喫して下さい。ありがとうございました。

## ● 議長 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

上海につきましては、説明するまでもないと思います。中国の改革開放政策の標本ではないかと思えます。そして、ポドン地区というところがありますが、大変な発展の意志を持って建設中でございます。また、釜山とは姉妹都市でございます。ありがとうございました。次は、ウルムチ市です。お願い致します。

## ● ウルムチ ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

議長、そして各国の代表の皆様。皆様にお会いでき、嬉しく思います。

ウルムチは、中国のシンカクウイグル族自治区の首都で、中国の西北部の海から最も遠い都市であると言えます。現在人口は208万人で、ウイグル族・回族・漢族・蒙古族・ハサクス族等を中心とする47の少数民族が住んでいます。ウルムチ市政府では観光産業を大変重視しており、2005年までの発展計画に依りますと、経済を発展させ観光都市として建設しようと言うスローガンの下で、今年も1千万をR&Dに投資して観光産業の基礎を築き上げています。現在、3億人民貨幣が投資され民俗風景園が建設中で、これが完成しますと、民俗風景・ファッション・グルメ等が全てが含まれた観光団地になるでしょうし、ハサンチョンと言う文化村文化遺跡地が共に建設中でございます。

今年は、観光産業の基礎施設に力点を置いて全ての観光地に向かう交通関係施設を改善しました。特に、有名な



観光地が多いのですが、その中でも国家級以上の観光地として天池観光地とプルバンにポドリヨンというところがございます。天池は、85キロ離れていますが高速道路につながっていて便利でございます。ウルムチの東南方面の85キロにあるタバンチャンも重要な観光地でございます。ウルムチは、夜と昼の気温の差が激しく果物が大変豊富で美味しく果物の街、果物の故郷とも言います。また、踊りと歌の故郷・芸術の故郷とも言えます。ウルムチは、既存施設を基盤にして現代的特色と民俗的特色が調和を成している都市で、市民達は美しい踊りと歌、友情で皆様をお迎えするでしょう。

## ● 議長 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

この場で、二つの謎を得たようであります。世界で海から最も遠い都市は何処であるか、また、世界で少数民族が最も多い都市は何処であるか。それはウルムチでございます。ウルムチに関するご紹介を熱情的にしてくださいました。普段海をご覧になっていない方々は釜山の海雲台でご覧下さい。次は、最後にウラジオストックお願い致します。

## ● ウラジオストック ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

ウラジオストックはロシアの極東地域に位置し、経済の中心地であります。初めは軍基地として設立された都市でございます。過去には軍基地でございましたが、今は主に観光地として利用されています。また、ウラジオストックはロシアの極東地域で最も大きな交通の中心地で、韓国・日本・中国・キューバ・カナダ等と交通同盟を結んでおり、鉄道交通の中心地の役割も果たしています。また、大陸横断鉄道が始まる所で、その総距離は850キロでございます。国際空港があり、ソウル・釜山・新潟・ハルビン・大阪・バンコク・シンガポール・エンカリッジ等に行く直航路線が開設され、科学と芸術の中心地であり、多くの国立・私立の大学及びロシアのアカデミオレ・サイエンスに属する36の研究所がございます。皆様もご存じのように、1992年まで外国人の出入りが禁止されておりましたが、開放の以降外国からの観光客も訪問し、また、観光産業の開発のため、最善の努力を尽くしています。そして、開放の後、多くのアジア太平洋地域都市と姉妹締結をし、現在アメリカ・中国の大連・韓国等の8都市と姉妹都市となっています。そして、アメリカ・韓国・日本・ベトナムの総領事館がこの都市にあり、オーストラリア・英国・バングラデシュ・ドイツ・ニュージーランド・カナダの外交施設もがございます。ウラジオストックの観光客は殆どが中国・韓国・日本の方で、ウラジオストック市政府は観光産業の開発の為の計画を樹立中でございます。次の会議では、その計画内容を具体的にお話できると思います。

## ● 議長 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

ロシアで唯一ご参加なさいましたウラジオストックの詳細なご説明ありがとうございました。これで、18都市の紹介は終わりました。続いて北九州市の発表を承りたいと思います。

## ● 北九州 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

皆様今日は、北九州から参りました寺師と申します。北九州市の観光行政についてお話し申し上げます。

1963年、世界で初めて、門司・小倉・若松・八幡・戸畑と言つ5つの都市が対等合併して誕生したのが北九州市です。九州の最北端に位置する北九州市は、関門橋・関門トンネルで本州と結ばれ、本州と九州の玄関口となっています。市の面積は約482平方メートル、人口101万人を擁する都市です。

また、海外に目を向けると、東アジア諸国とは距離的に大変近い関係にあります。ここ釜山市とは直線距離にして約230km、ソウル市からも約500kmしか離れていません。北九州市から東京までの距離が約1000kmであることからみても、その近さがお分かりいただけるでしょう。

かつては「日本の四大工業地帯」として製造業を中心に「鉄の都」として日本の高度経済成長を支えてきましたが、1980年代後半の円高不況、構造不況の影響によるいわゆる「鉄冷え」で都市の活力は沈滞した状況となりました。こうした状況を打破し、経済を活性化する施策として取り入れられたのが「観光振興策」でした。しかし、当時の北九州市にとっての「観光」とは、他の町の観光地に出かけることであり、市外から観光客を集めて都市の活力にする、いわゆる「観光マインド」は乏しいものでした。

1987年、今の末吉興一市長が北九州市長に就任した年、北九州市には観光を専門に扱う部署がありませんでした。観光客数に関する統計もありません。そもそも北九州市によそから客を迎えるという感覚が、市長はもとより市役所の職員にも全くありませんでした。少なくとも観光で成り立つような都市ではなかったことは事実です。

しかし、人を集める観光資源がなかったかという点、そんなことはありません。標高400m～600m、南北11km、東西2kmにわたる緩やかな広がりをもつ「平尾台」は日本を代表するカルスト台地ですし、国指定の天然記念物にもなっている鐘乳洞もあります。玄海国定公園の一部でもある「若松北海岸」は海水浴やボードセーリングなどマリンスポーツのメッカとなっています。

ほかにも、世界で初めとか、東洋一の吊り橋といわれて騒がれたものとして、例えば、1958年に開通した「関門国道トンネル」、1962年に開通した「若戸大橋」、1973年に開通した「関門橋」があります。いずれも、たくさんの人が観光バスに乗って見学にきました。バスを降りて橋を見て、実際に渡って、その後どうしたかという点、別府の温泉に行くわけです。市内には、まず例外なく泊まっています。当時は、観光客や今で言う「交流人口」にはまったく関心がなかったのです。

このため、北九州市は、地域振興施策の重要な柱として、観光行政に取り組み始めました。観光振興によって、人の集まる、賑わいのある街づくりを進め、地域経済を活性化する必要があったからです。交通・宿泊・飲食などの観光関連産業は地域への波及効果が大いに期待できるからです。コンベンション誘致などは地域経済振興にきわめて即効性が高いものです。鉄と石炭中心の重工業都市として北九州は、いわゆる構造不況の波に飲まれており、こうした即効性のある地域振興策が何より求められてもいたのです。

1988年、北九州市が取った初めての観光客数のデータは、年間330万人というものでした。

「観光」には「しつらい」「ふるまい」「もてなし」と、三つの大事な条件があるといわれます。「しつらい」は道具立て、観光のソール、観光の施設などハード面の整備で、これはこの14年間で実に劇的に充実したといえるでしょう。

1990年、世界初めの宇宙テーマパーク「スペースワールド」がオープン。

1995年、大陸貿易の基地として1889年に開港し、最盛期には年間600万人近い乗降客で賑わったという門司港をロマンチックな観光地として蘇らせた「門司港レトロ」がオープン。

1998年には、北九州市のシンボルの一つである「小倉城」に隣接して、小倉城の城主だった小笠原氏の下屋敷を再現した「小倉城庭園」と日本を代表する作家・松本清張氏の業績を伝える「松本清張記念館」が開館。また、競輪の他、最先端のマルチメディア技術を活用した新しい形態のイベント、コンベンションなどに利用できる多目的ドーム「北九州メディアドーム」がオープンしています。

2000年には、ジャグジー、うたせ湯、寝湯、楓風呂、桧風呂、ドライサウナ、ミストサウナ、洞穴風呂が楽しめる「河内温泉あじさいの湯」がオープン。

今年2001年には、百万ドルの夜景と評価の高い皿倉山頂への足である「帆柱ケーブルカー」がパノラマカーとなりリニューアルオープンしています。

また、コンベンション施設として、JR小倉駅北側には、1990年に「北九州国際会議場」が開館、1998年の新館開業により「西日本総合展示場」が西日本最大級の展示面積を誇る施設となり、一大コンベンションゾーンを形成しています。1998年にリニューアルされた北九州市の玄関口である「JR小倉駅」からは、「動く歩道」に乗ってわずか5分の距離です。

「ふるまい」はイベントと言うこともできますが、北九州市はもともと五つの都市が対等合併してできた百万都市ですから、「小倉祇園太鼓」や「戸畑祇園大山笠」「黒崎祇園山笠」など、200年から400年に近い伝統のある祭りがいくつもあります。さらに、1988年には、こうした祭りを一堂の集めたエンターテインメント性の高い100万市民の祭りとして「わっしょい百万夏祭り」も誕生、以来毎年盛大に開催されています。また、国際音楽祭や演劇祭など、百万都市ならではの文化・芸術に関するさまざまな催しも多彩に開催されています。

特に、今年2001年は、官営八幡製作所の東田第一高炉に火が入って100周年を迎えるのを機に、7月4日～11月4日の124日間にわたって、スペースワールドの隣接した29ヘクタールの開場で「北九州博覧祭2001」を開催しています。従来型の博覧会の加えて、コンベンションやフェスティバルも一体となった、新しい「祭り」として華やかに繰広げられています。

つまり、もともと伝統あるさまざまな「ふるまい」の要素があるうえに、最近では文化・芸術に関する多彩な催しが展開されており、こうした催しを観光客とともに多くの市民がいっしょになって楽しい時間や空間を共有することが大切だと考えるようになっていきます。そうした意味でも、現在開催中の「北九州博覧祭2001」は「産業・技術」「環境」「アジア」「健康・福祉」などの視点で、まさに北九州市がこれから目指すまちづくりの方向性を示すとともに、観光地としての北九州市の集大成とも言えるべき「観光客と市民とのふれ合いの共有空間」となっています。

さて、3つ目の「もてなし」はホスピタリティマインドのことで、市民総出で観光客を温かく受け入れる心の持ちよう、態度です。もともと日本語には「謙譲語」と言って、自分を卑下して表現することで、相対的に相手に敬意を表す言葉がありますが、観光都市を目指し始めたころの北九州市では、例えば、観光客が「市内にどこかいい観光地がありますか」と尋ねても、たいていの市民が「大したものはないよ」と答えていました。もともと工業都市だっただけに、観光地としての「もてなし」の意識も、「いいものをいい」と宣伝する気持ちも希薄でした。

しかし、1995年から、北九州市を訪れる人々に対してホスピタリティあふれる温かいもてなしをしようと「百万にこにこホスピタリティ運動を展開し、関係事業者だけでなく、市民に対して積極的な啓蒙活動を行っています。観光地としてのハード整備が進み、多くの観光客が訪れるようになるとともに、こうした啓蒙活動によって近年は市民による観光案内ボランティアが活躍するなど、この「もてなし」の心も次第に根付いてきています。

このような努力の成果によって、1988年に年間330万人だった観光客が10年後の1998年には、1000万人を超えるまでになっています。

さて、北九州には、山や海などの美しい自然景観、温泉、お城などの歴史的文化遺産、博物館やテーマパークなどのレジャー施設、競馬や競輪などのスポーツ施設、夏祭りなどのイベントなど、多彩な観光資源を持っていますが、ほかにはない特徴として挙げられるものに「勉強観光」があります。

一つは、「行政観光」とでもいうもので、北九州市役所の行っている保険福祉行政、女性政策、住宅環境改善事業、観光行政など、時代を先取りした事例や難しい課題をうまく解決した事例など特色ある施策が「北九州方式」として評判となり、全国の自治体関係者や議員が視察に来られるというものです。

これに加えて、もともと国内有数の工業都市であるという特色を生かして、様々な分野の工場を見学できるというものです。鉄鋼の新日本製鉄、ロボットの安川電気、衛生陶器のTOTOなどの工場視察で、北九州市には特色ある企業が多く「産業観光」の大きな業績があるのです。

近年の観光形態は、単なる物見遊山的な観光から、「体験」や「学習」の要素を強めたものに変化してきていますが、「勉強観光」はこうしたニーズに対応できる北九州市独特の観光方式と言えます。この「勉強観光」と、スペー

スワールドや門司港レトロなどの観光をセットにし、より多くの観光客が訪れることを目標に一層積極的な観光セールスを展開していきたいと考えています。

さて、北九州市のこれまでの観光行政の取組みの歴史と特徴をご紹介しましたが、次に、具体的な観光施策の展開の仕方を簡単にご説明しましょう。観光施策の実施に当たっては、近年、広域的な取組みが主流になりつつあります。北九州市のみの観光宣伝ではなく、地域的なつながりのある都市との連携による観光宣伝活動が効果的だとの判断からです。国際空港のあるお隣の福岡市はもとより、有名な温泉地である別府や大分といった九州の東側の都市との連携、関門海峡をはさむ下関市との連携などです。

また、特に、海外への観光宣伝に当たっては、こうした地域的な連携は特に重要だと考えています。東京や大阪と違い、ネームバリューのない北九州市ではもともと大きなハンデを背負っています。加えて、観光客のニーズは今後ますます多様化していく傾向にあり、九州あるいは北部九州、東九州といった広域的な地域で一体的に宣伝活動をしていかざるを得ないのではないかと思います。

また、こうした広域的な連携と並行して、市内の民間の観光施設やホテル等との組織的な連携を図っています。韓国、中国、台湾、香港などの東アジア地域を対象に、まさしく一体となって観光宣伝活動を展開しています。具体的には、旅行商品の造成・販売を促進するためのマスコミやエージェントへの訪問や招聘事業、国際観光展への出展事業、旅行雑誌等への広告掲載、マスコミの取材への協力などのほか、市内の観光施設やホテル、飲食店などの割引利用ができる「ウェルカムカード」も発行しています。

「都市観光」とは、市民、企業、行政が一体となり、国内外の多様な人々との交流を通じた、地域振興のための新しい都市づくりといえるでしょう。

そうした意味では、アジア太平洋都市間の観光交流の拡大は、大変有意義なことです。北九州市は観光都市としてまだまだ経験不足ではありますが、逆に、だからこそこうした取組みの必要を強く感じています。

都市の魅力は、そこに住む人によって創られるものですが、外部との交流や接触を通じて、磨かれ発展するものだと思うからです。私たちは、こうした交流を通じて、都市の魅力を高める工夫、観光客に楽しんでもらうための様々なサービスを考えていきたいと思っています。

私の発表が皆様に少しでも参考になればと思います。各都市には、観光の規模や先進性、歴史など、様々な面で違いがあるので、具体的な観光施策を把握理解するためには、自由な意見交換の場が必要だと思い、観光情報提供の場、会員都市間で観光施策に対する広報の場となるべきだと思います。そして、民間経済協会、観光会社、観光事業者から各都市間の観光交流に関するヒアリングの場を設けるのは如何でしょうか。または、一定レベルの情報交

流が必要だと思います。そして、観光案内情報交流が必要だと思います。観光案内ボランティアが各都市にいると思いますので、その方々の交流や意見交換、学習の場を設けたいと思います。ご静聴ありがとうございます。

#### ● 議長 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

北九州市、ありがとうございました。約30分間にわたり、観光必須要件の3つをお話していただきました。第1は、見物の提供のための観光基本施設の構築、第2に、観光客と市民が丸丸となって楽しい時間を共有できるイベントの開発、第3に、市民の「観光客を暖かく受け入れる」という心構えです。特に、学習観光についてお話していただきましたが、特色があって、すばらしい企画の観光商品だと思います。韓国には親孝行観光というものがあります。つまり、子供が親のために観光を計画し、親を旅行に行かせるという意味で親孝行観光と言いますが、グローバル時代の若い人、特に、中高校、大学生などを体験観光、学習観光に誘致する観光の流れが非常に重要だと思います。韓日・日韓間にも修学旅行団の交流が活発に行われていますが、これから未来に向けて、世界の人が1つになるという意味で望ましい方法だと思います。素晴らしい発表をしていただきました北九州市に感謝致します。質問事項がありましたら、どうぞ質問してください。

#### ● 大連 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

はい、北九州の発表に非常に感銘を受けました。そして、観光業に対するアプローチが私ども大連ととても似ていると思いました。他の多くの都市も刺激されたのではないのでしょうか。このような会議を通じて、アジア太平洋地域の観光経験を交流し、21世紀の観光発展に貢献することを願います。ありがとうございました。

#### ● 議長 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

次に、ジャカルタ市、お願いします。

#### ● ジャカルタ ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

はい、素晴らしい発表だと思います。そして、内容がとても具体的で、有益な構成でした。北九州は6年前に観光の重要性を認識したとおっしゃいましたが、それでは、観光における人的資源をどう開発したのかについてお聞かせ願えますか。

#### ● 北九州 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

率直に申し上げまして、まだ人的資源が充分完成したとは思いません。6年前、いや、14～15年前に初めて観光に目覚めたと申し上げましたが、民間事業者や市の行政面で観光および観光マインドを重要な産業として認識していますが、実際、スローガンと実行の間には差があるので、これからも努力していかなければならないと思います。

● 議長 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

フロアからは意見ありませんか。ないようでしたら、TPO創設について議論をしなければならない時間ではありますが、多少の見解違いがあり、いくつかの都市は事前協議が必要だと思います。会員都市代表の皆様がご了承されれば、コーヒブレイクを先にとり、TPOについての規約案を上程し、協議をしたいと思います。拍手で同意を表していただきたいと思います。ありがとうございました。

3時までコーヒブレイクです。3時に会議を再開させていただきます。